地域のチカラを応援する遠野健康福祉の里のニュースレター

「つながる・支え合い」たより

令和４年４月号
（第７号）
発行：遠野市健康福祉部
健康福祉の里

地域をまるごと　地域の身近な相談員として、みなさんのそばに

「丸ごと相談員」は、みなさんの地域の相談員として、平成二十九年度後半に、「丸ごと相談員」を市内三地区に配置してから約三年半が経過しました。

本年四月には、松崎、宮守地区が丸ごと相談員となり、さらに強化した九名の丸ごと相談員の活動が始まります。

聞かせて！丸ごとさん！…　①コロナが終息したらやりたいこと　②地域の皆さんに一言！

＜　遠野地区　＞

佐々木　隆一（ささき りゅういち）

①地域の皆さんと会食しながら交流したいと思います。
②『町民は「丸ごと家族」』をモットーに活動します。

＜　附馬牛地区　＞

菊池　静子（きくち しずこ）

①新幹線で友達と旅行する。気兼ねなく食べ歩きしたい。
②昨年は集まりの場に制限があり、皆様との交流の機会を持てずにいましたが、今年度は「丸ごと」知っていただくためにも、地域へ足を運びますのでよろしくお願いいたします。

＜　青笹地区　＞

久慈　学（くじ まなぶ）

①温泉旅行、遠野ホップ収穫祭参加、コロナで中止になっているイベント巡り。
②青笹町の担当もおかげさまで２年目に突入しました！まだまだ未熟ですが青笹の皆さん「何でも相談できる窓口」として頑張りますので今年度も宜しくお願い致します。

＜　綾織地区　＞

菊池　直美（きくち なおみ）

①マスクを外し周りを気にせず笑いたい。
②これから、皆さんとお会いする機会も多くあるかと思います。どうぞよろしくお願い致します。

＜　松崎地区　＞

菊池　薫（きくち かおり）

①カフェ＆沢山の人と顔を合わせて食事すること。
②まちづくり、一緒に元気に楽しく取り組みます！みなさんの支えとなるような丸ごと相談員を目指します。

＜　上郷地区　＞

谷地　信弥（やち しんや）

①家族で旅行に出かけたいです。
②今年２年目になりました。地理的な点もだいぶわかりました。上郷町のことをいろいろ教えてください。

＜　小友・鱒沢地区　＞

菊池　律子（きくち りつこ）

①老若男女が集い小友まつりを盛大に開催し明日の未来への声を聞きたい。
②また、お世話になります。皆様と一緒に「健康と暮らし」を大切に考えていきます。

＜　土淵地区　＞

阿部　弘恵（あべ ひろえ）

①大好きな野球観戦や旅行に行きたいです。
②土淵地区の皆さんとワクワクするような活動をしていきたいと思っています。よろしくお願いします。

＜　宮守地区　＞

熊谷　達也（くまがい たつや）

①皆さんが集まって楽しめる新しい行事を行いたい。
②新しく丸ごと相談員となりましたので、頑張ってまいります。色々とご相談ください。

令和４年４月号もくじ　・・・

P1 地域の身近な相談員として、みなさんのそばに／P2～3 生活支援コーディネーター事業報告会／
P4　健康福祉の里相談窓口の顔ぶれ

制作：遠野健康福祉の里福祉課（支え合い支援担当）・健康長寿課　　TEL 62-5111（代表）

くろーずあっぷ！

あったらいいな！を身近に

丸ごと・在介相談員による報告会を開催

丸ごと相談員、在宅介護支援センター相談員が、一年間の地域アセスメント結果や担当する地域での活動を報告する、「生活支援コーディネーター事業報告会」が、三月十六日にとぴあ庁舎で開催されました。

当日は、多田市長をはじめとして、丸ごと相談員、在宅介護支援センター相談員を運営する法人の方々にもご臨席いただきました。また、コロナウイルス感染症予防から、密になる状態を避けるため、ＺＯＯＭでの配信を開始。併せて五〇名の方々に参加いただきました。

また、発表は、丸ごと相談員、在宅介護支援センター相談員のほか、健康福祉の里の職員から事業の成果発表を行いました。

全ての発表を聴いていただいた多田市長からは、「見えにくいものを見えるようにする地域アセスメントの大切さを改めて感じた。小さな拠点において素晴らしい活動をしていることに感謝し、これからも相談員同士助け合いながら頑張ってほしい。」と励ましの言葉をいただきました。

令和四年度も、取り組みを全体で振り返る場として事業報告会を開催する方向で進めることとしています。

令和３年度生活支援コーディネーター事業報告会

発　表　内　容

1　行政の取り組み成果発表
①生活支援体制整備事業について（健康長寿課）
②介護予防事業について（健康長寿課）
③重層的支援体制整備事業について（福祉課）

2　地区相談員による地域アセスメント結果と活動報告・次年度の取り組み発表
①在宅介護支援センター松崎
②丸ごと相談員　上郷地区
③在宅介護支援センター宮守
④丸ごと相談員　附馬牛地区
⑤丸ごと相談員　青笹地区
⑥丸ごと相談員　遠野地区
⑦丸ごと相談員　小友地区
⑧丸ごと相談員　土淵地区
⑨丸ごと相談員　綾織地区

宮守・達曽部地区

地区内の認知症キッズサポーター養成講座で講師を務め、試行錯誤しながら若い世代の認知症理解に取り組んだエピソードを紹介していただきました。。

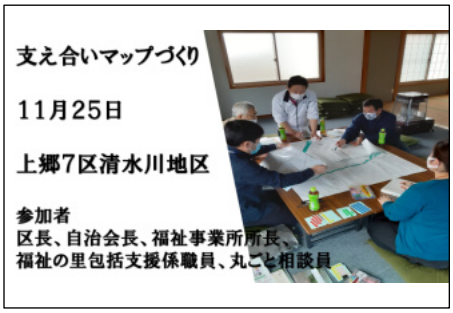
また、サロンに集まった方々に、健康情報や間違い探しなどの記事を掲載した在介だよりを配布し、楽しんでいただけるよう工夫しました。

このサロンは、地区によって実施方法が異なるなど、地域ごとの特徴があることから、それぞれが地域の高齢者のために工夫しながら実施しているため、今後も地域には欠かせない資源であることを再認識したようでした。次年度以降はコロナにより休止しているサロンをいかに再開し、生きがい創出に努めていくか考えていきたいと話していました。

上郷地区

支え合いマップ作りから自然に地域課題や今後の地域象等の話題が発生し、有意義な活動だったと振り返っていました。マップ作りを実施した自治会から研修会等を開催したいとの声もあったようで、これを契機により地域力を向上させたいと感じているようです。

さらに、令和２年度から実施している買い物ツアー事業の課題等を住民と振り返り、より地域の実情に合った事業にできるよう努めていきたいとのことでした。

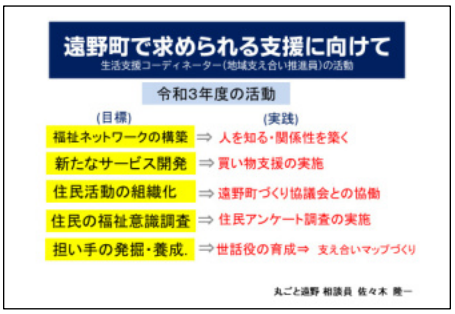


松崎地区

通いの場（いきいき百歳体操）に趣味活動などの付加価値を付け、より充実した住民の居場所づくりに取り組んだほか、多世代食堂がコロナで実施できない状況を打破するため、フードパントリー型の活動を実施したことなどが発表されました。

また、松崎町未来づくり協議会の地域振興部会のふれあい農園と、清風支援学校の学生たちをマッチングし、農福連携の事業へとつなげました。　次年度以降は、社会資源の豊富さにも着目し、さらなるつながりづくりに取り組んでいきたいとのことでした。

遠野地区



商店が閉店し、利便性が悪くなってしまった地区をモデル地区として、新たなサービスとなる「相乗りタクシー買い物支援事業」の取り組みについて紹介。この事業は、今後、遠野町内全域運行を目指して支援していくとのことです。
また、住民に対し福祉意識調査を実施した結果を踏まえ、次年度以降は、様々な人・団体・機関と協働しながら新たな支え合い事業の創出に取り組みたいとのことでした。

青笹地区

着任初年度の年、老人クラブの活動や、社協青笹支部事業など様々な地区行事に参加し、住民との関係構築に努めた一年間だったと振り返っていました。また、青笹町のミニ広報に地域支え合いの記事を掲載し、支え合い活動の普及啓発にも努めたとのことです。次年度は、犬の散歩などちょっとしたことにもたくさんの意味があることを理解してもらうための啓蒙活動に努めるほか、小さな拠点を生かした町独自の支え合い創出に注力し、便利より豊かな地域づくりの一役を担いたいと意気込んでいました。

附馬牛地区

訪問を重ねることで、訪問先の方が認知症の家族を介護していく中での悩みを打ち明けてくれるようになったこと、そして、同じ悩みを持つ方が地域に多くいることに気づき、このような方々に寄り添うため家族介護者教室を実施したことや、認知症に対する正しい知識は小さいころから得ることが必要と考え、児童館で認知症キッズサポーター養成講座を開催したことなど発表されました。
今後も、地域に足を運び、地域に本当に必要なものを自分の目で見て確かめながら、地域支え合い事業を展開していきたいとのことでした。

綾織地区

まちづくり計画を基盤に、困りごと調査を実施し、そこから見えてきた買い物弱者の課題解決に向け、市内の移動販売業者と情報交換し、移動販売マップを作製した取り組みについて発表がありました。結果的に、買い物弱者の解消だけでなく、利用者相互の見守り効果や、移動販売業者の売り上げアップなど双方にメリットのある事業となったことが成果と語っていました。このほかに、行政区から出た課題を、その地区の課題ととらえず、町全体の課題としてとらえ、町のワークショップで検討する機会に話題提供し、課題解決に住民と一緒になって取り組み、支え合いネットワークを創出するまでの過程の報告がされました。

土淵地区

町内10行政区すべてで支え合いマップ作りを実施し、災害時要支援者や危険個所の情報共有等を通して、地域支え合いを見える化する取り組みを行ったほか、以前より課題となっていた交通弱者に対する支援事業を創出するまでの経過について発表していただきました。経過を振り返り、「地域ケア会議の活用や、検討委員会の開催を通じて住民が安心して取り組める環境づくりに努めた」と生活支援コーディネーターとしての役割を振り返っていました。

小友・鱒沢地区

小友町内に複数あるサロンの中の一つに着目し、コロナ化でも孤独にならないコミュニケーションづくりを展開したことについて説明したほか、鱒沢地区で実施している買い物ツアーの利用者減少の課題について、住民のニーズは日々変わっていくことを認識し、振り返りの場も必要と感じたようでした。
次年度以降は、公共交通機関のない地区の支援方法や除雪支援の方法について住民と一緒になって考えていきたいとのことでした。

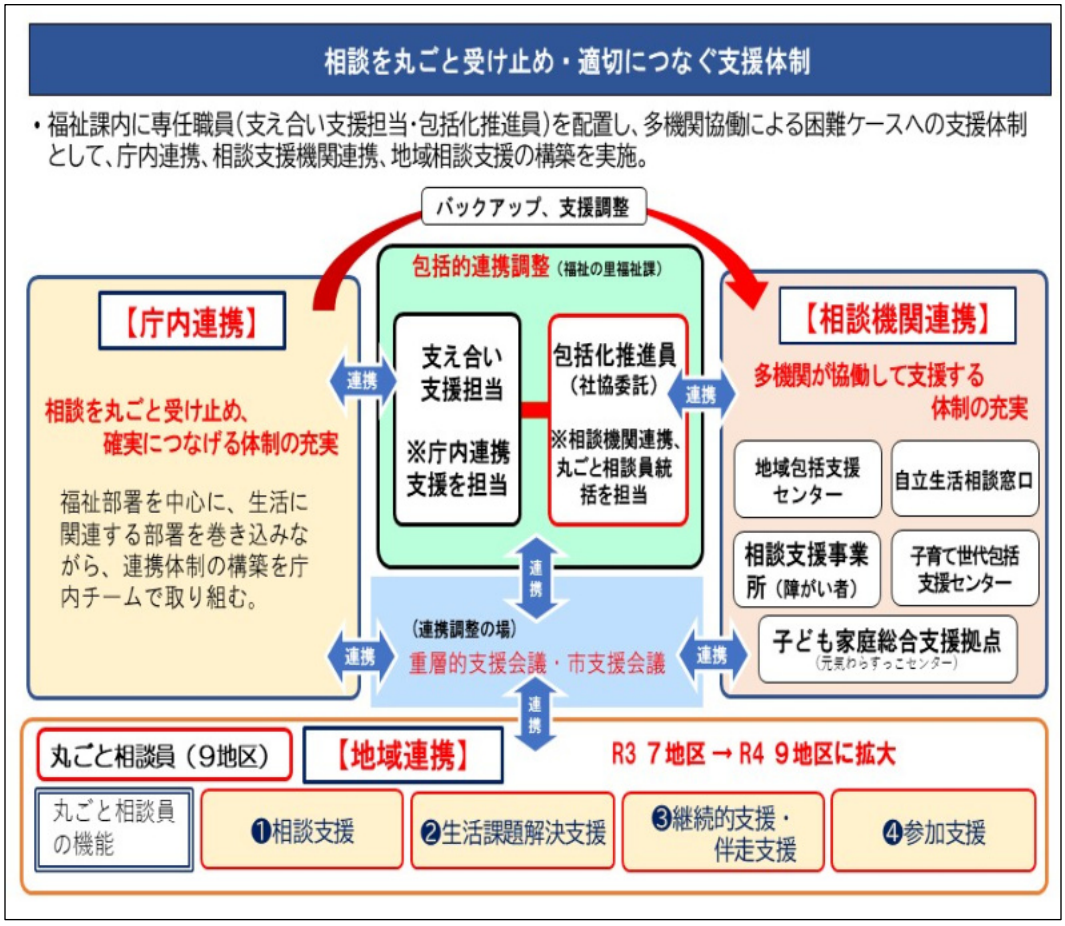
※おことわり 「シリーズ福祉行政の今」はお休みします。

健康福祉の里相談窓口の顔ぶれ

関係者のみんながつながり合って

健康福祉の里では、この度の組織再編により健康福祉部と子育て応援部が健康福祉部に統合されたことにより、子育て分野は子育て支援課、母子保健分野は保健医療課で担当することになりました。また、包括的な相談支援体制の構築としては、福祉課に「包括化推進員」を配置（市社会福祉協議会へ委託）して、相談機関との連携や丸ごと相談員の総括を担当します。昨年度から配置されている支え合い支援担当は、市役所内の関係課との連携調整を引き続き行います。（→右図を参照）今年度もよろしくお願いします。

（福祉課支え合い支援担当）



福祉の相談機関と市役所内、地域とつながり、新たな地域支え合いを進めて参ります。